

みえてきた日本株過去最高値更新の道筋



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 名目GDPが過去最高を更新

内閣府が15日に発表した23年10-12月期のGDP速報値で、物価変動の影響を除いた実質GDPは、個人消費の低迷が足かせとなり、前期比年率換算で0.4%減と2四半期連続のマイナス成長となりました。一方、実際の取引価格に基づいて算出される名目GDPについては、年率換算で596兆円と過去最高を更新しました（右上図）。名目GDPの拡大は、同様に名目ベースである日本企業の業績拡大にもつながるため、日本株にとってポジティブと考えられます。

日本の名目GDPはバブル崩壊やデフレの長期化の影響を受け、550兆円が壁となってきました。ただ、昨年この壁を明確に超え、今回過去最高を更新したことは日本経済が新たなステージに入りつつあることを示しています。今後はインフレを上回る賃上げが実現し、個人消費が持続的に拡大するかが課題となります。

ポイント② みえてきた日本株最高値への道筋

日本は経済だけでなく、企業業績も過去最高を更新していることも見逃せません。世界的なテクノロジー需要の拡大や企業の構造改革の進展、インバウンド需要の拡大、デフレ脱却機運の高まり、円安基調の継続など、日本企業を取り巻く環境は良好といえます。こうしたなか、日本株全体の動きを示すTOPIXの予想EPSは25年にかけて一段と拡大するとみられており、業績拡大が日本株の上昇を後押しする構図は続きそうです（右下図）。

日本の経済や企業業績の動向を踏まえると、日本株の最高値更新の道筋は明確にみえてきたように感じられます。日本株が89年末につけた最高値を更新することはバブルの呪縛からようやく解放されることを意味すると同時に、日本株が新たなスタート地点に立つことを意味するのではないのでしょうか。

TOPIX（東証株価指数）と日本の名目GDP（国内総生産）



期間：(TOPIX) 1984年3月末～2024年2月14日、四半期
(日本の名目GDP) 1984年1-3月期～2023年10-12月期、四半期
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

TOPIXと同12カ月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2013年1月4日～2024年2月14日、日次
●印は2025年のBloomberg予想（2024年2月14日時点）
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。